

「第21回 奨励賞・功労賞」記念特別号

一般社団法人

日本女性科学者の会 NEWS

The Society of Japanese Women Scientists

No.119 Special Issue, 2016.9



I. 第21回日本女性科学者の会奨励賞・功労賞贈呈によせて

一般社団法人 日本女性科学者の会 会長 功刀 由紀子

第21回（2016年度）日本女性科学者の会奨励賞・功労賞の贈呈式、ならびに奨励賞受賞記念講演会が去る5月22日（日）の午後、学士会館にて挙行されました。奨励賞は、国際的に評価の高い研究成果を挙げている大神田淳子氏と金玖秀氏の2名に贈呈することができました。今後、女性研究者のリーダーとして活躍されることが期待される人材です。

また、功労賞には、多様な分野で御活躍され、後進にとって見事なロールモデルとなる赤松良子氏、角谷治子氏、北川慶子氏の3名に贈呈することができました。奨励賞および功労賞を受賞された5名の方々のプロフィールや研究内容につきましては、本号に詳細が記載されておりますのでご一読をお願い致します。

さて、今回21回目となる奨励賞・功労賞の設立経緯について、改めて考えてみました。特に奨励賞については、女性研究者の研究環境に配慮をした、21年前の当時としては先駆的な賞を設立したと言えます。同じ土俵で業績評価を行うと、一見劣って見える女性研究者の業績は、通過してきたライフイベントの影響を考慮すれば、決して劣ってはいないことが見えてきます。そのため、応募条件等に工夫をした賞の設定に踏み切ったのでしょう。それから21年が経過し、男女共同参画が叫ばれる社会の変革とも相まって、今や多くの専門学会でも女性専用の賞が設定されるように

なりました。

しかしながら翻って考えたとき、男女を区別した賞の存在が不要となることも目指すべきではないでしょうか。本会の設立趣旨にも謳われているように、「女性と男性がともに個性と能力を発揮できる環境」が誰にも平等に実現されるようになれば、男女共同土俵で研究業績評価が行われても良いはずで

す。女性活躍推進法が本年4月1日から施行され、法的強制力も相まって女性の登用や活躍の環境改善が一層促進されると期待されます。一方、女性研究者の活躍環境にも改善の兆しがみられるとは言え、まだ道半ばというのが現状です。女性と男性がともに個性と能力を発揮できる環境とネットワークの構築を目指し、本会の活動内容も改めて本会設立趣旨に立ち返り、原点から見直す必要があるのではないのでしょうか。

今回の贈呈式には御来賓として、内閣府男女共同参画局局长の武川恵子氏、内閣府大臣官房審議官の華房実保氏、国立女性教育会館理事長の内海房子氏、および本会顧問の丸岡賢氏のご臨席を賜りました。また、武川局長よりご祝辞を賜りましたこと、この紙面をお借り致しまして深く感謝の意を表します。

目次

- I. 第21回日本女性科学者の会 奨励賞・功労賞贈呈によせて…………… 1
- II. 第21回日本女性科学者の会 奨励賞・功労賞受賞者のプロフィール、賞選考経緯…………… 2
- III. 奨励賞受賞者の講演要旨…………… 5
- IV. 受賞者の挨拶…………… 7
- V. 第22回「日本女性科学者の会奨励賞」募集要項 …… 9
- VI. 定時総会報告、2015年度会務報告、2016年度事業計画 …… 10
- VII. ブロック活動報告…………… 11
- VIII. 第21回奨励賞・功労賞贈呈式およびレセプション風景 …… 12



御来賓 華房氏    奨励賞受賞者 金氏    奨励賞受賞者 大神田氏    御来賓 武川氏    御来賓 内海氏  
 功労賞受賞者 北川氏    功労賞受賞者 赤松氏    功刀会長    功労賞受賞者 角谷氏

第21回日本女性科学者の会  
奨励賞受賞



大神田 淳子 氏  
(OHKANDA JUNKO)

50歳

博士(工学)  
京都大学化学研究所  
准教授

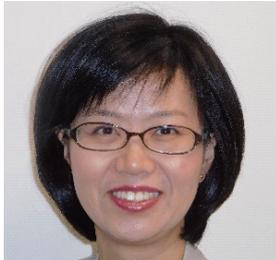
研究課題：「タンパク質間相互作用を調整する合成分子の創製」

賞贈呈理由：受賞者は2005年以来、超分子化学の概念を基盤とする独創的な生理活性合成分子の開発研究を展開してきた。特に、受賞者が着想した低分子の集積化に基づく中分子の構築法は、たんぱく質間相互作用を対象とする新しい創薬のみならず、天然物ケミカルバイオロジー、プローブ開発など多方面への応用が可能なユニークなアプローチである。なかでもK-Rasたんぱく質間相互作用の阻害剤研究は、難治性がん治療薬の開発に新しい道を拓く先駆的な成果として、現在国内外で注目されている。

略 歴：1988年東京学芸大学教育学部中等理科教員養成課程卒業。1990年お茶の水女子大学大学院理学研究科化学専攻博士前期課程修了。1990年(株)リコー中央研究所。1991年 成蹊大学工学部助手。1996年東京大学にて論文博士取得。1998年Yale大学化学科博士研究員。2003年Achillion Pharmaceuticals, Inc. (Connecticut, USA)。2004年東京学芸大学教育学部専任講師。2005年大阪大学産業科学研究所准教授。2013年4月より現職。

連絡先：〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学化学研究所  
TEL：0774-38-3222 FAX：0774-38-3226  
E-mail：johkanda@scl.kyoto-u.ac.jp

第21回日本女性科学者の会  
奨励賞受賞



金 玫秀 氏  
(KIM MINSOO)

44歳

博士(理学)  
京都大学 白眉センター  
特定准教授

研究課題：「病原細菌による宿主粘膜感染の分子機構の解明」

賞贈呈理由：受賞者は、病原因子の機能を分子細胞生物学や生化学などの手法によって解析し、腸管病原細菌の感染成立機構を解明してきた。特に、腸管病原細菌が宿主細胞の接着シグナルやユビキチン修飾系を巧妙に利用して、感染を成立させることを発見した。また、構造生物学の手法を取り入れて、病原因子の作用機序を原子レベルで解明することにも成功してきた。これらの成果を基盤として、今後病原因子の機能を阻害する化合物の同定を進めることで、細菌感染症の治療・抑制技術の開発に寄与することが期待される。

略 歴：1995年相明女子大学(韓国)自然科学部化学学科卒業後、2001年東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻博士課程を修了し、理学博士取得。2001年より、東京都臨床医学総合研究所外部支援研究員、2005年より日本学術振興会外国人特別研究員、2007年より東京大学医科学研究所特任助教を経て、2012年より東京大学医科学研究所特任准教授、2015年4月より現職。

連絡先：〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町  
京都大学・大学院医学研究科・細胞機能制御学  
TEL：075-753-4674 FAX：075-753-4676  
E-mail：minsoo@mcp.med.kyoto-u.ac.jp

※ 学術大会・新春シンポジウム 予告 ※  
テーマ：「自分の可能性を信じ、新たな挑戦を！」

詳しくはSJWSの  
ホームページで!!

日時：2017年1月7日(出) 13:00~19:00

場所：大阪科学技術センター 小ホール

一般講演：13:00~15:00

〒550-0004 大阪市西区靱本町1丁目8番4号

新春シンポジウム(特別講演含)：15:30~16:30

TEL：06-6443-5324 (貸会場担当)

懇親会：17:00~19:00 (科学技術センターレストラン)

第21回日本女性科学者の会

功労賞受賞



赤松 良子氏  
(AKAMATSU RYOKO)

86歳

日本ユニセフ協会会長、  
WIN WIN代表、  
クオータ制を推進する  
会代表

**賞贈呈理由:** 赤松氏は、東京大学法学部を経て労働省に入省後、一貫して女性の労働環境改善に取り組んできた。例えば、婦人労働課長時代には勤労婦人福祉法の立案に際し、育児休業制度を盛り込んだのをはじめ、国連公使として女子差別撤廃条約に賛成票を投じたり、女子差別撤廃条約批准に関わる国内法整備として、男女雇用機会均等法立案の中軸となったりした（本法は1985年に制定）。また、ペンネーム「青杉優子」として女子の結婚退職制を批判する論文も発表した。細川、羽田内閣時には文部大臣に就任し、公務員の旧姓使用の検討や、甲子園で開催される高校野球選手権大会で自らがマウンドに立ち始球式を行い、さらに女子マネージャーはベンチに入ることができないという当時のルールに対し疑問を呈した（現在は女子マネージャーもベンチ入りできるように改善された）。現在は、女性政治家を増やすことを目的とし、選挙での女性候補者を支援する団体「WIN WIN」の会長を務めるとともに、女性政治家の数的確保を目指す「クオータ制を推進する会」の代表としても活躍中である。以上のように女性の地位向上に関する赤松氏の功績は極めて優れており、現在も女性の労働環境改善に強靱な意志を持って取り組まれている。

**略 歴:** 1953年東京大学法学部卒業後、同年労働省に入省、1979年に国連日本政府代表部公使に就任、1982年には労働省婦人少年局長に就任し、男女雇用機会均等法の立案にあたった。1986-1989年、駐ウルグアイ大使、女性職業財団会長、国際女性の地位協会会長、文京女子大学教授などの職を務めた。1993-1994年、細川、羽田内閣で文部大臣に就任、1997年国際女性の地位協会10周年を記念して「赤松良子賞」を設立、1999年政治の分野への進出を目指す女性を支援するネットワークWIN WIN代表に就任。また、2008年より日本ユニセフ協会会長を務める。2013年よりクオータ制を推進する会代表。

**連絡先:** 〒106-0032 東京都港区六本木5-11-22-309  
FAX : 03-3423-3534

第21回日本女性科学者の会

功労賞受賞



角谷 治子氏  
(KAKUTANI HARUKO)

76歳

博士(理学)

**賞贈呈理由:** 角谷氏は、1970年の設立まもない日本婦人科学者の会（1958年設立。現日本女性科学者の会）に入会以来、長きに亘り、会員として、また、幹事、理事、監事として会の運営に尽力した。1995年制定のSJWS賞規定や2005年制定の倫理規定の策定への貢献は特筆すべきものがある。角谷氏は、化学科の学部卒業後、直ちに民間企業の研究所に就職し、基礎的研究に従事する中で博士号を取得し、1974年の第1回日本婦人科学者訪中団に参加して中国でその成果について講演するなど国際交流にも貢献した。その後、日本の製造化学工業の高度成長を後押しするため、知財・特許の係争を直接担当する部長として業務を遂行した。定年退職後は、母校の社会人大学院に入学し、法科で特許権について更に研究を行うなど、「生涯勉強」のロールモデルも実践している。角谷氏は女性研究者の少ない民間企業の立場から、当会の活動推進のために、常に活発な発言を行うなど、女性研究者の地位向上の取り組みに多大な貢献をされた。

**略 歴:** 1962年 東京教育大学理学部化学科卒業後、呉羽化学工業株式会社に入社し定年まで勤めた。その間、1970年に東京教育大学にて論文博士取得。1970-1974年に早稲田大学理工学部応用物理学科個人助手として出向（学部学生の卒業研究指導）、1974年には、第1回日本婦人科学者訪中団メンバーとして1ヶ月に渡り「ポリフッ化ビニリデンの電気物性」についての講演を行った。また、1978-1979年に McGill 大学化学科（Prof. Dr. Adi Eisenberg 研究室、Canada, Montreal）に博士研究員として勤務した。2000年に呉羽化学工業株式会社を定年退職した後、2003-2015年には、オーロラ国際特許事務所（西川特許事務所）勤務、2009-2012年には、JST（独立行政法人 科学技術振興機構）知的財産審査委員会専門委員会の委員を務めた。

**連絡先:** 〒272-0034 千葉県市川市市川4 丁目4-17 市川国府台マンション1006  
TEL : 047-373-7164 E-mail : kakutani-haru@nifty.com

第21回日本女性科学者の会

功労賞受賞



北川 慶子 氏  
(KITAGAWA KEIKO)

66歳

博士(社会福祉学)

聖徳大学社会福祉学科  
心理・福祉学部 教授

**賞贈呈理由:** 北川氏は、現代社会が直面している課題：災害・危機管理学、高齢者・児童福祉学、国際コミュニケーション学等を専門とし、日韓中米での高齢者施設と医療・福祉の生活環境指標の評価と検討、保健福祉と防災・災害救助・復興支援に貢献できる人材育成などをテーマとして、国際的にも非常に幅広く活躍している。特に、「防災文化を築く次世代のための防災教育」に関する講演会での報告、更には、アジアヒューマンサービス学会の会長や国際社会危機管理学会理事として、数々の研究活動を基盤とした人材育成に取り組んでいる。北川氏の多彩な社会貢献は、国際ソロプチミストMD奨学賞（1999年）、中国淮海工学院大学荣誉賞（2001年）、韓国太田市社会福祉貢献賞（2010年）等、数々の受賞に示されるように海外でも評価されている。このように、幅広い教育・研究活動に加えて男女共同参画に関連する活動にも尽力しており、前任地である佐賀大学では、女性研究者支援を実現するために男女共同参画推進室を立ち上げ、モデル育成支援事業「三世代サポート型佐賀大学女性研究者支援事業」を実施するなど、佐賀大学における男女共同参画の発展に大きく貢献した。現在は、国際相互理解の中核となるアジアでの共生・発展をひとつの指標として、「モンゴルの防災研究：災害と女性、健康、貧困」の取り組みを進めている。

**略 歴:** 1976年 東洋大学大学院社会学研究科にて修士号を取得し、1979年に博士課程単位取得満期退学後、1979-1984年、郡山女子大学短期大学部保育学科講師、1984-1994年に中京学院大学短期大学部保育科助教授、1988年に教授に昇任。その後、1989-1993年にLutheran Bible Institute(米国)のAdjunct Professor、1995-1997年には中京学院大学短期大学部保育科教授、1999年には東洋大学社会福祉学にて博士号を取得し、佐賀大学文化教育学部助教授に、2002年には教授に就任。その後、佐賀大学学長特別補佐、評議員、副学部長を歴任し、さらには佐賀大学女性研究者支援室副室長、男女共同参画推進室長も務めた。2014年から現職。

**連絡先:** 〒603-8227 京都市北区紫野北舟岡町24-17

TEL: 075-414-8491 E-mail: kitagake@seitoku.ac.jp

## 第21回(2016年度)日本女性科学者の会奨励賞・功労賞 選考経緯

第21回奨励賞は、2015年8月に本学会のHPに募集要項を掲載するとともに、本会広報誌(SJWS News)、男女共同参画・女性研究者支援関連施設がある80あまりの大学や研究機関へのメール案内、女性研究者メーリングリストへの配信、物理、化学、生物、医学関連の主だった学会のHPへの掲載等を介して広く周知し、2015年11月1日～15日の2週間を応募期間として募集したところ、26名の応募がありました。この数年、より広い分野から応募があり、分野横断的な研究が多くなる傾向があります。応募者の中から、特に優れた応募者を理事会にて厳選し、化学分野2名、生物・生化学/医学・薬学分野3名、物理3名につき、学術的な評価を中心に、各専門分野の外部評価委員にお願いし、その評価結果を参考として、3月の理事会にて奨励賞の趣旨にふさわしい候補者の最終選考を行いました。多くの時間と多岐に渡る議論を尽くし慎重に審議した結果、化学分野から大神田 淳子氏、生物・生化学・医学・薬学分野から金 玫秀氏の2氏に奨励賞を贈呈することが決まりました。

功労賞は、2016年2月1日から20日までを応募期間として募集いたしました。現在日本ユニセフ協会会長、WIN WIN代表、クォータ制を推進する会代表を務められておられる赤松良子氏は、功刀由紀子会長および大倉多美子監事による推薦を、本会で長年理事、監事として会の運営に尽力して来られた角谷治子氏は、宮本霧子理事、中山榮子理事の推薦、聖徳大学教授の北川慶子氏は、佐々木政子名誉会員、野呂知加子理事の推薦を受け、応募いただきました。3氏につき、3月の理事会にて協議いたしまして、3氏のこれまでの女性研究者支援活動を称え、功労賞を贈呈することが満場一致で決まりました。(文責 賞担当事務 近藤科江)

## タンパク質間相互作用を調整する合成分子の創製

京都大学化学研究所 大神田 淳子

### 1. タンパク質間相互作用(PPIs)と中分子

ポストゲノムの新しい創薬標的としてタンパク質間相互作用(PPIs)が広く認知されるようになった。ヒトの推定65万のPPIsのおよそ8割が細胞内信号伝達を担っていると考えられており、医薬、化学生物学研究においてPPIsを調節する有機合成分子の利用価値は高い。しかしPPIの作用面は活性ポケットなどとは異なり一般的には広く平坦で水分子や電解質に覆われており、リガンド設計が非常に難しい。最近、分子量600~10,000の中分子を基盤とするPPI創薬へパラダイムシフトが起きているが、分子量の軽減と結合選択性の確保との間に常にジレンマが付きまとい、医薬品開発を難しくしている。

### 2. 部品集積法による中分子阻害剤設計

私たちは細胞内PPIsを標的とする中分子戦略として、部品の集積法による分子設計を検討してきた。この方法の特徴は、必要最小限にサイズを絞った合成中分子を構築できるため、細胞透過性を確保しやすい点にある(図1)。これまでに、難治性がんの原因たんぱく質として知られるKRasたんぱく質のPPI阻害剤を始めとした中分子阻害剤の創出に成功してきた。

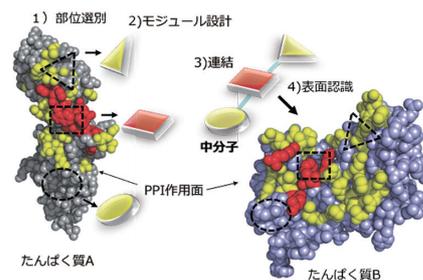


図1. 部品集積法による中分子設計

### 3. アンカー型中分子による細胞内PPIの制御と抗がん活性

PPI作用面は広く浅いため、低分子阻害剤が結合する足掛かりが乏しい。そこで部品集積法を、活性ポケットへの結合を足掛かりとしてPPI作用面に低分子を配置するアンカー型分子戦略に応用した。研究の結果、脂質修飾酵素の活性ポケットとKRasとのPPI作用面を認識する部品化合物を連結した中分子が、顕著にK-Ras脂質修飾を阻害し細胞増殖を抑制することを明らかにした。このアンカー法は他のPPIにも広く適用できる可能性を持っている。

### 4. 標的たんぱく質を鋳型とする細胞内中分子合成

PPI分子ツールは分子サイズが大きく細胞透過性が低い。この問題に対し、細胞内で部品集積を行ってPPI阻害剤を合成する戦略を着想した。反応基を導入した天然物とペプチドを合理設計し、14-3-3たんぱく質存在下で縮合反応が顕著に加速されることを見出した。また細胞実験の結果、細胞内で縮合反応が進行し、リン酸化信号伝達系PPIの阻害に基づく著しい細胞毒性を示すことを明らかにした。本手法はPPIを指向した新しいプロドラッグ戦略として期待される。

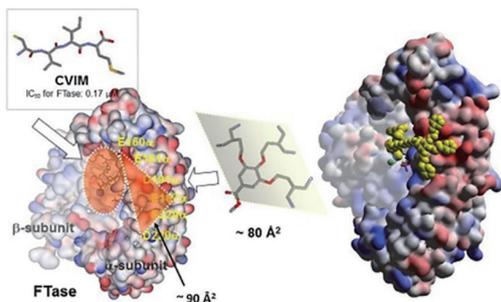


図2. アンカー法によるPPI阻害剤設計

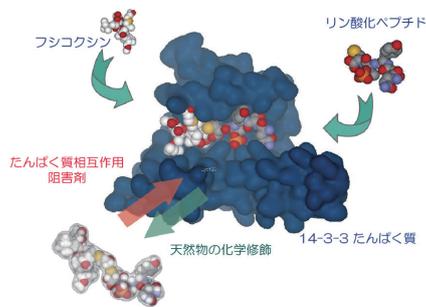


図3. 細胞内部部品集積による中分子PPI阻害剤合成

## 病原細菌による宿主粘膜感染の分子機構の解明

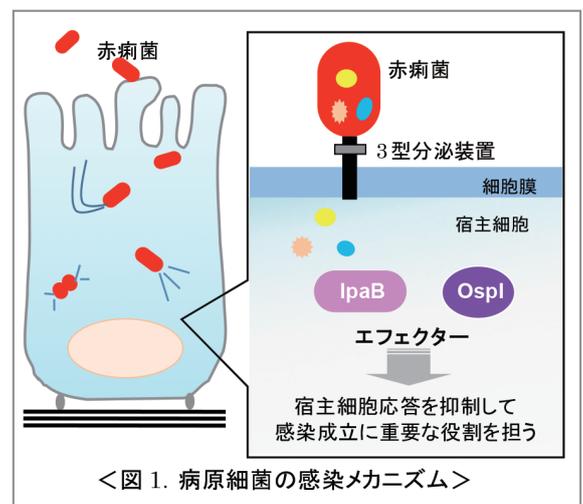
京都大学 白眉センター 金 玫秀

多くの抗生物質を手にした現代社会においても、細菌感染症は人類にとって大きな脅威である。中でも、腸管病原細菌は近年、多剤耐性菌による感染症例が増加し、有効なワクチンもないため、新たな治療技術の開発が求められている。腸管病原細菌の多くは、飲料水や食物により口から侵入し、腸管の粘膜を構成する上皮細胞を足場として感染して下痢症を誘導する。ヒトなどの宿主は病原体に対する基本的な生体防御システムとして、感染を受けた上皮細胞の除去、炎症反応などを誘導することで病原細菌の定着を防いでいる。これに対して、腸管病原細菌は感染成立戦略の1つとしてタイプIII分泌装置により一群の病原因子(エフェクター)を宿主細胞に分泌する。これらのエフェクターは宿主細胞のアクチン細胞骨格や免疫応答などを制御し、感染成立に必要な宿主シグナル伝達経路をハイジャックする一方、この間に発動される自然免疫応答を適度に抑制している(図1)。このように、エフェクターは細胞因子を巧みに利用する菌の戦略を担い、感染成立に重要な役割を果たしている。

蛋白質分解機構の1つであるユビキチン・プロテアソームシステムは細胞周期制御や発生・発癌・神経変性疾患など様々な生命現象に関わっている。蛋白質のユビキチン化はユビキチン活性化酵素(E1)、ユビキチン連結酵素(E2)、ユビキチンリガーゼ(E3)の連鎖的な酵素反応によって起こり、その結果、基質蛋白質にユビキチンが共有結合される。ユビキチン化された蛋白質の多くはプロテアソームによって認識され、分解される。近年、様々な病原細菌のエフェクターの中から、ユビキチン修飾経路を介して、感染成立に必要な細胞応答を引き起こす分子が報告されている。これらは大きく(1)ユビキチン修飾経路の酵素活性を持つ分子(E3や脱ユビキチン化酵素)と、(2)宿主細胞内でユビキチン化・分解を受ける基質分子、(3)宿主のユビキチン修飾経路を制御する分子に分けられる。(1)の例としては、その脱ユビキチン化酵素活性により  $I\kappa B\alpha$  の分解を抑制し、炎症反応を抑制するサルモネラ菌の SseL、E3 として機能するサルモネラ菌の SopA や腸管出血性大腸菌の NleL が挙げられる。また、(2)の例としては、サルモネラ菌の SopE と SptP、エルシニア属菌の YopE がユビキチン化修飾を受けることが報告されているが、これらのエフェクターをユビキチン化する E3 は分かっていない。(3)の例として、我々は、赤痢菌の IpaB が宿主 APC/C の E3 活性を制御することを報告していたが、さらに、新たな反応機構によりユビキチン修飾経路を阻害するエフェクターを見出し、以下のように、それらの機能解析を行った。

赤痢菌のエフェクターである OspI の X-線結晶構造解析を行い、その立体構造を 2.05Å 分解能で決定したところ、OspI に脱アミド化酵素様の構造を持つことが判明した。さらに、OspI が UBC13 と相互作用することを見いだした。UBC13 は Uev1A とヘテロダイマーを形成し、Tumor-necrosis factor (TNF)-receptor-associated factor 6 (TRAF6) の E2 として働き、炎症免疫シグナルを制御している。更なる解析の結果、OspI が UBC13 の 100 番目のグルタミンを脱アミド化し、グルタミン酸に変換することにより TRAF6 の E3 活性を抑制し、TRAF6 を介したシグナル経路を阻害することによって、赤痢菌感染時における宿主の炎症反応が抑えられることを示した。さらに、OspI と Ubc13 の複合体構造も解き明かし、酵素-基質間の相互作用を担う分子基盤を明らかにした。他方、腸管出血性大腸菌エルシニア属菌等、多くの病原細菌に保存されている cell-inhibiting factor (Cif) がユビキチンや NEDD8 を脱アミド化することで、Cullin-Ring Ligase 型 E3 の活性を抑制することを見いだした。

近年、病原細菌やウイルスの感染における翻訳後修飾の重要性が明らかになり始めている。しかし、ユビキチン修飾経路に関わるエフェクター分子については多くが未解明である。病原細菌の感染成立に重要なエフェクターの作用機序を解明することにより、その知見を基にしたエフェクターの阻害剤、ひいては、病原細菌に対する治療薬の開発につなげていきたい。



### 奨励賞受賞に寄せて

京都大学化学研究所 大神田 淳子

このたびは第21回日本女性科学者の会奨励賞を賜りまして誠にありがとうございました。これまで積み上げてきた仕事をこのような形で評価して下さった諸先生方にこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。この受賞は私にとって、まだまだ足りないからさらに気を引き締めて頑張らなさいという、叱咤激励と捉えております。この機会にこれまでの研究を見つめ直し、より柔軟に生命化学研究に取り組んでゆく覚悟です。

民間、大学、国内外の9か所の研究室を経験してきました。30代で学位を取り生物有機化学に目覚めたとき、師として仰ぎたい先生は米国にいました。周囲の反対を押し切って単身渡米を決意しましたが、内心はひょっとするともう戻って来られないかもしれないという不安に押しつぶされそうでした。当時、日本の有機合成化学会には、研究と家庭を両立しながら活躍されていた北海道大学教授の森美和子先生がおられました。渡米直前に森先生にご挨拶する機会があったとき、先生は私の手をとって「大丈夫。」とおっしゃって下さいました。「どんなことがあっても決して研究を辞めてはだめよ。どんな場所でも形でも良いから続けなさい。」小柄な先生が本当に大きく見えました。その後、米国では働く女性の遅しさを目の当たりにし非常に刺激を受けました。仲間にも恵まれました。研究には性別差も国境もないことを米国から教わりました。それでも、厳しかったとき、あのときの森先生の手の温もりと言葉を何度思い出したことかわかりません。

「継続を力に」は、我が国の女性研究者の道を切り拓いてこられた先輩方が体現してこられた精神そのものです。私自身もその精神を引き継げるように今後も努力を続けて参ります。そして研究・教育活動を通じて次の世代の力になれることがあればこんなに幸せなことはありません。最後に貴会の益々のご発展をお祈りいたします。

### 奨励賞受賞の挨拶

京都大学白眉センター 金 玫秀

この度は、第21回日本女性科学者の会奨励賞をいただき、誠にありがとうございました。素晴らしい諸先輩方が受賞されてきた歴史ある賞をいただき、大変な名誉に感激しております。この受賞は、様々な形で私をご指導、ご支援下さった多くの先生方や、研究生活の支えとなった家族のおかげであり、この場をお借りして深くお礼申し上げます。

私は韓国から文部科学省の国費留学生として東京大学大学院に入り、現在は沖縄科学技術大学院大学にいらっしゃる山本雅先生のご指導のもとで分子生物学を学び、学位を取得しました。異国での生活には大きな期待も不安もありましたが、山本研の先輩や同僚は研究生活のスタートにおいてとても大きな支えでありました。博士取得後、現・東京都医学総合研究所・田中啓二先生の研究室でポストドクトラルフェローとして、修練を積みました。山本研や田中研で、厳しくも闊達な研究環境の中、1つ1つ学術論文をまとめていったことが現在の私の研究のベースになっています。その後、現・日本生物科学研究所の笹川千尋先生の研究室に参画し、本受賞の研究課題である細菌生物学に初めて触れました。笹川研でも良い研究環境に恵まれ、さらに、今も共同研究をさせていただいている兵庫県立大学の水島恒裕先生と構造解析を取り入れた研究に着手することができました。私は現在、病原細菌の感染成立におけるユビキチン修飾系の役割を主要なテーマとしていますが、ユビキチン修飾系は私が山本研や田中研で深く研究した分野であり、不思議な縁を感じています。山本先生、田中先生、笹川先生、さらには現在の研究室を主宰するにあたり大変なご支援をいただいております岩井一宏先生を始め、研究を一緒に進めさせていただいた諸先生・同僚の皆様に改めて感謝申し上げます。

今後は、今回いただきました大変光栄な賞を更なる励みに、自分の研究を着実に発展させていきたいと思っております。また、今回の懇親会においても、日本女性科学者の会の諸先輩方が女性研究者の立場向上のために、大変な熱意を持ってご尽力されていることを伺いました。微力ながらも、私の留学・研究生活の経験を踏まえ、日本で奮闘している外国人を含めた女性の研究者や学生の一助になるような仕事をする中で、本会にご恩返しができるのであれば大変嬉しく思います。この度は誠にありがとうございました。

## 功労賞受賞によせて

赤松 良子

日本女性科学者の会から功労賞を頂き、大変光栄なことと天にも昇る心地がした。この会のことは、私は心の中で「リケジョの会」と呼んでおり、尊敬する学者・研究者の方々が居られることは以前から知っていたけれど、自分自身は文系なので、遠くから眺めているだけであった。そしてその方面に関して何の働きもしておらず、貢献など全く無いと思うので、功労賞を頂くことなど、全く「望外の喜び」そのものである。

しかし、幼い頃のことを振り返ってみると、私が高名な女性の話聞いて一番初めに感動したのは、確かキュリー夫人だったと記憶がある。まだ小学生、低学年の頃、マリー・キュリーの娘エーヴ・キュリーが書いた母の伝記が翻訳、出版されたのを姉が読んで、すっかり夢中になり、一生懸命に私に話してくれたのであった。この姉は私より七つ年長だから当時すでに高等女学校の高学年でちゃんと本の読める優等生で、とても向上心のある女子だった。ノーベル賞という大変な賞が存在すること、それをもらった女性がいること、最初夫と二人でした研究でラヂウムというものを発見してこの賞を受けたが、これは世界初の女性受賞であったこと、その後高年になった後、もう一度、今度は独りでノーベル賞を受けた、即ち、生涯で二回もノーベル賞の受賞者になったのだということを、教えてくれた。それはすごいと妹はすっかり感心し、そーゆー一人に私もなりたいと思込んだのであった。こういった単純なあこがれには、文系も理系もない。またあの時代、あれだけ世界中に知られた偉大な女性は他には無かったのではないか。日本の歴史では、天照大神とか、神功皇后とかの名が出てくるのは知っていたが、それは神話の世界だから、昭和の子供の関心からはかけ離れている。ロシアのエカテリーナ女王やイギリスのエリザベス女王(一世)の名を知ったのはもっと後のことだったし、それに女王様では身分が違っていて問題外である。

それに引き換え、マダム・キュリーは同時代(少し前だが)だから嬉しい。どんなに苦勞の多い研究生活だったかには想いは及ばず、理科という学課はまだだったが算数はちゃんとよくできたから同類のように想像したりして……。あとで、長女のイレヌ・キュリーもノーベル賞受賞者だと聞いて、この頭はどうも遺伝のようだ。とするとエカキの娘では無理な話かと思った。母は悪くはないが、ノーベル賞級とまでとはとてもいかないし……。とマリー・キュリーへの私の夢は消えていったが、今日、日本にも立派なりケジョが育って、親しくさせて頂けるのは、本当に嬉しいことである。

## 功労賞をいただいて

角谷 治子

功労賞を有り難うございました。日本女性科学者の会では、沢山のことを学ばせていただきました。勤務した化学会社でも、また専門の研究学会でも得られなかった場です。同じ自然科学分野に仕事を持ちながら、女性の社会的地位の向上を共通の目標の一つとし、率直に話し合える会でした。会務活動に、自分の知識を駆使しましたが、それ以上に、多くの、ロールモデルとしての先輩、情報交換・協力できる友人を得たこと、また会を通して社会的活動の機会を得ることが出来たことを、感謝しています。その上、思いがけず功労賞をいただけたことは本当に嬉しく思います。

自然科学の研究者として仕事出来るのは幸せと思います。奨励賞を受賞された方々の話を伺っていても、楽しいのです。「ときめき」があります。ときめいて研究し、そしてそれを社会に役立てていけること、素晴らしいです。

もちろん科学研究の場にいたとしても、続けていくためには社会環境に無関心でいるわけにはいかなくなります。研究の場を得るための努力、研究費を得るための努力なども容易ではありません。本会の活動の一つもそれを支援するものです。私達は研究者としての喜び、研究を仕事として進められる幸せを自覚し、社会への還元を、謙虚に、そして、しっかり考えたいと思います。

私は親の介護のため、また定年後も続けられる仕事の準備を下心に、会社の定年前に実験の場を離れ、本社勤務になりました。その後の仕事は技術的知識を基盤としていましたが、科学研究とは少し異なる対象の中で忙殺されることになりました。もっとも他社との特許係争の交渉時は、私の学会活動を評価して下さった方々の信頼が大きくなりました。

仮説をたて、実験し、失敗してもまた新しい発見、発明があります。私は今、発明、独創性、それはどのように生まれ、守られていくものかをテーマとして、研究を続けています。女性科学者の活動が十分評価されるためにも有用と考えられているのです。

2016年度「女性科学者の会功労賞」の受賞は私の人生には「想定外」の衝撃的な受賞でした。まさに感謝の気持ちで溢れ出る心持です。深甚の感謝を申し上げます。この栄えある受賞は、私だけでなく、佐賀大学退職後赴任しました現在の女子大学の人文・社会学系学問を専攻する研究者や学生たちにも希望をもたらしました。女性研究者として、一つの道筋を提示することになったかと感謝し、今後若手女性研究者の育成でご恩返しを致したいと思っています。

私が母と同じく、女性が自ら自己実現の道を選択し、次世代を育成することを実践する道歩むようになったのは、生育環境によってでした。1960年代に教育長を務め、自然科学者でもあった祖父は、「これからは女性も一生を男性に頼らずに生きていくことを考えねばならない」と教育し、母親は、1960年代のアメリカ社会で性別・年齢を超えて大学で学ぶ人たちの姿に触発され、帰国後は大学での生涯教育の先駆けとなり、わが国の大学の女性学部長の草分けともなりました。私の大学での専攻は、女子学生が一人だけの機械工学科で、不得手な理系克服が目的でした。しかし、これも運命だったのでしょうか。この理系専攻がその後の社会学・社会福祉学領域の研究に活かされることになりました。研究面で人文社会科学系と自然科学系の異分野融合型での現代社会が直面する多様な課題の研究、特に、災害・危機管理研究への誘因となりました。

今日、国を超えてあらゆる部面で大きな社会課題となっている貧困、健康、平和への取り組みも若い研究者を含め女性研究者、女性の社会活動抜きには語れなく、女性の躍進は社会科学分野でも大きな潮流です。しかし、それを一層進めるためには多彩な研究者たちの安定的な研究ができる環境が必須の要件です。私は運よく、JST女性研究者支援モデル育成支援事業「三世代サポート型佐賀大学女性研究者支援事業」(佐賀大学)を獲得し、女性研究者支援を開始、事業終了後も男女共同参画推進室長として地方大学における教育・研究の場での男女共同参画の発展に微力を傾けてまいりました。また、20年余り佐賀県男女共同参画審議会委員・会長としての責務を担い、地域の男女共同参画の環境整備にも多くのことを学びました。

近年、女性の研究分野における活動も大きく変容しましたが、未だ性別・年齢別の真の共生社会が築かれているとは言い難い部面も多く、私は、ライフワークとしてアジア各国の研究者と共に「災害・女性・健康・貧困」をテーマにした研究を継続しつつ女性研究者の育成をしていく所存です。

## V. 第22回(2017年度)『日本女性科学者の会奨励賞』募集要項

### 『日本女性科学者の会奨励賞』募集要項

**対象者**：広く理系の分野で研究業績をあげ、その将来性を期待できる方で、かつ本会の趣旨に賛同し、その達成のために努力していると認められる本会会員を対象とします。特に年齢、国籍、性別は問いませんが、管理職(教授、部長等)にある方はご遠慮下さい。自薦・他薦は問いません。

※応募と同時に入会申し込みも受け付けます。

詳細はSJWS事務関係「入会案内」<http://www.sjws.info/admission/index.html>の項目をご覧ください。

**奨励賞**：表彰盾および副賞20万円(年1～3件)、本会総会(例年5月)において贈呈

**応募書類**：①本会所定の書式(本会ホームページ<http://www.sjws.jp/>からダウンロードして下さい)

②論文リスト(各論文の最新のインパクトファクターを記載して下さい)

③関連する主要論文3編のPDF(過去5年以内のもの)

**応募方法**：Eメールにて提出(①に署名した用紙はPDF化して送付して下さい)。添付ファイル名には、応募者の氏名を記載し、応募者氏名をホルダー名としたホルダーに①～③をいれて圧縮(zip形式)してお送り下さい。

**応募期間**：2016年11月1日(火)～11月20日(日) 必着

**提出先**：日本女性科学者の会 賞担当 近藤 科江 理事宛 E-mail：award@sjws.info  
件名を「日本女性科学者の会奨励賞応募」として送信して下さい。

**決定時期**：2017年3月末頃(メールにて本人宛通知)

## VI. 定時総会報告、2015年度会務報告、2016年度事業計画

### 【第3回定時会員総会報告】

日時：2016年05月22日(日) 10:00~11:00

場所：学士会館203号室

議長：浜田恵美子理事

出席会員数（委任状による者を含む）151名で総会成立

次第：

#### 【第1号議案】2015年度会務ならびに事業報告（石川理事）

各ブロックの活動報告：東北・北海道ブロック（平野理事）、  
関東ブロック（石川理事）、東海・中部・北陸ブロック（永澤理事）、  
関西ブロック（懸橋理事）、中国・四国・九州・  
沖縄ブロック（小川理事）承認

#### 【第2号議案】2016年度事業計画（石川理事）承認

【第3号議案】2015年度収支決算と監査報告（決算報告：安川理事、  
監査報告：大島監事）承認

#### 【第4号議案】2016年度予算案について（安川理事）承認

#### 【報告事項】

- ・「定款に基づく規則類の一部改訂について」（永澤理事）
- ・名簿の扱いについて（永澤理事）

### 【SJWS 2015年度会務ならびに事業報告】

#### 1. SJWS主要会議の開催状況

##### 【総会】

2015年5月31日(日) 学士会館302号室 10:35~12:00

出席会員数：146名（委任状含む）、議決権のある会員総数：  
286名、会員総会運営規則第7条により成立

##### ①会長挨拶

##### ②新体制理事および監事の承認

吉祥選挙管理委員長から理事候補者選挙について経過  
報告があった。

2015年度理事・監事

理事：石川稚佳子、梅津理恵、大富美智子、小川由起子、  
懸橋理枝、功刀由紀子、小浪悠紀子、近藤科江、  
清島真理子、玉井幸恵、永澤秀子、中山榮子、  
野呂知加子、浜田恵美子、平野浩子、福原正代、  
本間美和子、宮本霧子、安川雪子

監事：大倉多美子、大島範子

##### ③2014年度会務ならびに事業報告

##### ④2014年度収支決算と監査報告

##### ⑤2015年度事業・活動計画案

##### ⑥2015年度予算案

##### ⑦ブロック活動報告(ブロック長)

##### 【理事会】

##### ①2015年5月31日(日)第1回通常理事会（学士会館）

理事出席数：17名 成立

主要議題：代表理事の決定

##### ②2015年6月7日(日)第2回通常理事会（東京薬科大学千代田 キャンパス）理事出席数：13名 成立

主要議題：委員会および担当理事の決定、主たる事務  
所について

##### ③2015年7月18日(日)第3回通常理事会（愛知大学 東京霞が 関オフィス）理事出席数：14名 成立

主要議題：委員会設置規則改定、ブロック設置規則改定、  
公印規則改定、奨励賞・功労賞の募集について

##### ④2015年12月5日(土)第4回通常理事会（愛知大学 東京霞が 関オフィス）理事出席数：15名 成立

主要議題：個人情報取扱、名簿の扱いについて、賞  
の選考について

##### ⑤2016年3月13日(日)第5回通常理事会（愛知大学 東京霞が 関オフィス）理事出席数：16名 成立

主要議題：事務局規則、情報公開規則、理事会規則の  
改定、役員候補者選出規則改定の議論、  
奨励賞・功労賞の決定

##### ⑥2016年4月24日(日)第6回通常理事会（愛知大学 東京霞が

関オフィス）理事出席数：13名 成立

主要議題：年度報告、年度計画の承認、役員候補者選  
出規則、賞に関する規則の改定

※議事録はHPの会員専用ページに掲載されています。

#### 2. 出版活動

ニュースの発行：2015年9月117号、2016年3月118号

日本女性科学者の会学術誌(電子版)の刊行 2016年3月31日  
第16巻発行

#### 3. 奨励賞・功労賞の贈呈

(1)第20回2015年度奨励賞・功労賞贈呈式ならびに奨励賞受  
賞記念講演会、懇親会

2015年5月31日(日) 学士会館302号室 13:00~17:00

・奨励賞受賞者：岩倉 いずみ、山越 葉子

・功労賞受賞者：林 文子

(2)第21回2016年度奨励賞・功労賞の選考

奨励賞応募者 26名

・奨励賞受賞者

大神田 淳子：博士(工学) 京都大学化学研究所 准教授

金 玖秀：博士(理学) 京都大学 白眉センター 特定准教授

・功労賞受賞者

赤松 良子：日本ユニセフ協会会長、WIN WIN代表、  
クオータ制を推進する会代表

角谷 治子：理学博士 日本女性科学者の会前理事

北川 慶子：博士(社会福祉学) 聖徳大学心理・  
福祉学部社会福祉学科教授

#### 4. SJWS主催事業

##### SJWS 2015年度例会

日時：2015年9月13日(日) 13:00~17:00

場所：東京薬科大学千代田キャンパス

担当：SJWS関東ブロック

実行委員長・司会：中山理事（ブロック長）

参加者：21名、参加費：1000円（学生会員は無料）

開会挨拶：功刀会長

[話題提供] 13:10~

・水間玲子(株)ケイエスピー事業開発部事業開発課主任

「女性活躍推進の流れにみる働き方の多様性」

・原田奈美(リンクスシステムコンサルティング合同会社代表)

「女性技術者の現状と今後の展望

~IT業界で働くとは?~」

・赤松良子

(日本ユニセフ協会会長、WinWin代表、クオータ制を  
推進する会会長)

「クオータ制について」

懇親会 16:50~17:00

閉会挨拶：大島監事

##### 新春懇談会

日時：2016年1月10日(日) 13:00~16:30

場所：ホテルレオパレス仙台カンファレンスルーム

担当：東北・北海道ブロック／参加者：21名

司会：本間理事 開会挨拶：功刀会長

特別講演：

・栗原和枝(東北大学WPI-AIMR,多元物質科学研究所教授)

「表面力測定と材料科学への展開」

・宮城妙子(宮城県立がんセンター研究所共同研究員)

「シアリターゼ研究：癌診療への応用をめざして」

閉会挨拶：平野理事（ブロック長）

懇親会：(15:00~16:30)

#### 5. SJWS共催事業

内閣府と共催「国・地方連携会議ネットワークを活用した  
男女共同参画推進事業」

日時：2015年12月21日(日) 10:00~16:00

場所：長崎国際大学／参加者：163名

担当：中国・四国・九州・沖縄ブロック

テーマ：「親子で考える理系の夢への挑戦」

司会進行：第1部・第3部 小川理事（ブロック長）  
第2部 玉井理事、副島会員

開会挨拶：功刀会長  
来賓挨拶：安部直樹

（学校法人九州文化学園理事長、長崎国際大学学長）

#### 【第1部】

基調講演：潮谷義子（日本社会事業大学理事長、前熊本県知事）  
「生命の不思議を知る」

講演：

- ・ 山口敦子（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授）  
「海洋のいきものについて教育・教育研究する仕事とは？」
- ・ 木村了（特定非営利活動法人女性技術士の会理事長）  
「女性技術者と資格」
- ・ 勝山雅子（㈱資生堂ライフサイエンス研究センター食品開発グループ副主任研究員）  
「きれいを応援する企業で化粧品ができるまでの研究～」
- ・ 大石昌代（ファイザー（㈱医薬開発部門 クリニカル・リサーチクリニカル・ファーマコロジー部））  
「面白い！を追いかけてーポジティブ挫折のススメ」

【第2部】 グループディスカッション

【第3部】 グループ発表と講評総括：功刀会長

閉会挨拶：酒井香世子

（内閣府男女共同参画局総務課政策企画調査官）

#### 6. SJWS参画事業

(1) APNN(Asia & Pacific Nation Network) Meeting への参加

2015年6月25日～27日（木～土）

Mongolian University of Science & Technology,  
モンゴル ウランバートル／参加者：173名

今栄東洋子会員が参加

(2) 女子中高生夏の学校2015への参加

2015年8月6日～8日（木～土）国立女性教育会館

テーマ：「科学・技術・人との出会い」

理科実験・実習は荒谷美智会員、宮本、中山理事が担当、  
ポスターセッションは石川理事、遠藤、板倉会員が担当

(3) 第7回日中韓女性リーダーズ会議

2015年8月26日（水）プラザホテル 韓国 ソウル

栗原和枝会員は講演、野呂理事はセッションリーダーとして参加

(4) GS6-AP(Gender Summit 6 Asia Pacific) 2015 への参加

2015年8月26日～28日（水～金）プラザホテル

韓国 ソウル／参加者：589名

近藤理事はポスター発表し、野呂理事は参加

(5) 第13回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへの参加

2015年10月17日（土）千葉大学西キャンパス

テーマ：「男女共同参画の推進：私たちの視点から国際的な視点へ」

ポスター発表は 中山理事、懇親会司会は野呂理事

(6) 2015 NGO 日本女性大会

2015年11月22日（日）10：00～17：00

東京女子医科大学 弥生記念講堂

テーマ「めざそう！2030年平和な未来のために」

主催：国際婦人年連絡会

SJWS参加者：功刀会長、宮本理事（担当）、大倉監事（担当）、

佐々木名誉会員、浜田、石川理事、遠藤久子、角谷治子、

金子律子、友村美根子会員の10名

#### 【2016年度事業計画】

1. SJWS主要会議の開催予定

・ 定期総会：2016年5月22日（日） 学士会館 203号室

・ 理事会／5回

2. 出版活動：

・ 日本女性科学者の会ニュース（119・120号）の発行

・ 日本女性科学者の会学術誌（電子版）の刊行

3. 奨励賞・功労賞

・ 第21回2016年度奨励賞・功労賞贈呈式ならびに奨励賞受賞

記念講演会、懇親会、2016年5月22日（日） 学士会館 203号室

・ 第22回2017年度「日本女性科学者の会奨励賞」の募集と  
選考ならびに「日本女性科学者の会功労賞」の選考

4. SJWS主催事業：

・ 第11回学術大会、新春シンポジウムの同時開催

大阪科学技術センター 2017年1月7日（土）

・ 勉強会

5. SJWS共催事業：

・ 内閣府「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女  
共同参画推進事業」に応募

・ 文部科学省科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバー  
シティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

2016年6月13日（金） 岐阜県大

6. SJWS参画事業への参加：

・ 女子中高生夏の学校2016 国立女性教育会館

・ 第13回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

・ 第3回USJC-ACCJウイメン・イン・ビジネス・サミット

・ JNWES(APNN、MAPWIST)国際会議

・ 日中韓女性科学・技術指導者フォーラム

・ 国際婦人年連絡会女性大会『北京+20』

7. 外部団体事業への後援

8. ブロック活動

関西ブロック：第11回学術大会、新春シンポジウム同時開催

大阪科学技術センター 2017年1月7日（土）

## Ⅶ. ブロック活動報告

<東北・北海道ブロック>

①2015年度新春懇談会開催

日時・場所：2016年1月10日（日） 13：00～16：30

ホテルレオパレス仙台

②青森 六ヶ所村の活動（荒谷美智ブロック会員）を後援

「六ヶ所村からの発信2015 むつシンポジウム」

～これからの下北半島と女性の役割～

日時・場所：平成27年8月30日（日）10：30～15：00

むつ市「来さまい館」

<関東ブロック>

①SJWS 2015年度例会を開催

日時・場所：2015年9月13日（日） 13：00～17：00

東京薬科大学千代田キャンパス

<東海・中部・北陸ブロック>

①学術講演会を開催

日時・場所：2015年12月4日（金） 岐阜薬科大学

平成27年度科学技術人材育成費補助事業

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

地域循環型女性研究者育成・支援プログラム共同研究セミナー

近藤 科江理事「がん微小環境標的とドラッグデリバリー」

<関西ブロック>

① Korea Federation of Women's Science & Technology

Associations の会長であるHee Young Paik先生と関西ブロッ

ク理事（功刀会長、懸橋理事）との懇談会を開催

日時・場所：2016年3月24日 京都

SJWSの活動を紹介するとともに、Paik先生からジェンダー

イノベーションについての説明を受けた。

<中国・四国・九州・沖縄ブロック>

①内閣府との共済事業を開催

日時・場所：2015年12月21日（日）10：00～16：00

長崎国際大学

テーマ「親子で考える理系の夢への挑戦」



❁ 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業 ❁

詳しくはSJWSのホームページで!!

※今年で4年連続して採択をされました内閣府との共催事業です

テーマ：「自然と科学が拓く地域の未来、あなたの未来」

日時：2016年12月3日(出) 13:00~17:00

■第1部：基調講演 13:00~15:30

■第2部：パネルディスカッション 15:40~17:00

場所：高山市高山市民文化会館（岐阜県高山市昭和町1丁目188-1）

対象：飛騨地方を中心とする中学生、高校生、中学高等学校  
教員、保護者、行政関係者、地域住民等、理系・文系・  
男女を問いません。

事務局からのお知らせ

1. 2016年度会費納入について再度のお願い

2016年度および過年度の会費未納入の会員におかれましては、重ねて会費納入へのご協力をお願い致します。振込用紙は、4月にお送りしましたニュース118号に同封致しておりますので、ご確認をお願い致します。

2. 所属先、メールアドレス等登録事項を変更された会員へお願い

入会時に登録されました所属先、連絡先、メールアドレス等を変更されました会員におかれましては、その旨をlist@sjws.infoへご連絡下さい。事務局からの郵便物や会員一斉メールが、宛先不明で戻ってくる件数が増えております。

編集：大富 美智子・玉井 幸恵・山口 陽子・小杉 尚子・四谷 理沙

発行所：一般社団法人 日本女性科学者の会 ©

事務局：〒453-8777 名古屋市中村区平池町4丁目60-6 愛知大学 名古屋一般教育研究室内

TEL：052-564-6151 FAX：052-564-6251 E-mail：sjws-office@sjws.info